

労働者もまた日常的に危険なアスベスト曝露を経験している。パキスタンで採掘されるアスベストに加えて、カナダからのアスベスト、及び廃船内のアスベスト製品も輸入される。一九九五年から二〇〇三年の間に、中皮腫六〇一症例がノースウエスト・フロンティア省で診断されているが、そのうち六〇％(三五六人)は男性、四〇％(二四五人)は女性である。^{*}パキスタン胸部学会の代表、アルシヤド・ジャブド博士(教授)によれば、一、〇〇〇症例がまだ診断されていない。^{**}アスベスト曝露に関連する健康影響が分かっているにもかかわらず、アスベスト関連疾患は保健省によって認定されておらず、危険な曝露はパキスタン環境保護庁によって管理されていない。たとえ明日、アスベストが禁止されても、廃棄物の問題が残る。パキスタンにはアスベスト廃棄物の収集または処分の手順が定められておらず、それらを受け入れるために指定された処分場もない。

全パキスタン労働組合連合は、産業生産大臣ジェハンギル・カーン・タリン宛てに送った「アスベストは人の命にとって危険である」と題する二〇〇六年三月二六日付け書簡で次のように述べている。

「この建材の危険性に関する科学的及び医学的証拠は、危険性がないのではないかという疑いを払拭するものである。労働組合のグループとしてわれわれは、この物質はわが国では禁止されるべきであると信じている。われわれはまた、アスベストはわが国の産業でいまだに広く製造され使用されており、政府、使用者、及び労働組合は早急にこの製品を代替物質に切り替えるために共に取り組むことを要求する」。

韓国

二〇〇七年に行われた分析結果により、ソウルの地下鉄の三つの路線にある一四の駅でアスベ

* [原注48] Jehan N. Asbestos Risks: Occupational and Para-Occupational Health Status in Pakistan. Global Asbestos Congress. November, 2004.

** [原注49] Mesothelioma Cancer on the Rise in NWFP; (accessed June 14, 2004): http://www.hipakistan.com/en/pdetail.php?newsId=en67109&F_catID=&f_type=source

ト繊維の存在が確認された。^{*}その繊維は、一九七〇年代と一九八〇年代に防音と断熱のために使用された製品から遊離したものである。ソウル地下鉄会社によるアスベスト含有物質の使用は二〇〇一年に止めているが、天井タイルなどにすでに使われている危険な物質は撤去されなかった。分析会社、ETSコンサルティングの広報担当は、駅の空気中のアスベストは「許容レベル以下」であるとしてそのリスクを軽視しているが、ソウル地下鉄は駅の汚染を取り除き、汚染物質を撤去すると約束した。

地下鉄のアスベストは韓国における五〇年近いアスベスト使用の遺産である。韓国のアスベスト産業のライフサイクルは三つの時期区分を持つている。

上昇期（一九六〇～一九八二年）

この産業の拡大は海外からの、とくに日本とドイツからの投資によって煽られたが、それは海外の会社が本国での規制の強化を考慮して危険な技術を韓国に移転したことによる。同時に、建設業と製造業の分野を活性化するという韓国の政策はアスベストの需要を増幅した。安全衛生に関する規制の欠如は、会社が管理措置をとる、あるいは労働者に防護装備を与えることによる出費を免れさせることを意味した。アスベスト産業が成熟するにつれて、アスベスト織物の製造が増大した。これらの製品は高品質の繊維を要求し、輸入パターンは消費におけるこの変化を反映した。

安定期（一九八三～一九九五年）

（韓国）産業安全衛生法（一九八二年）の導入により消費は逆風の影響を受けたが、アスベスト

* [原注50] Affected stations: Line 2: Youngdeungpo Office, Hanyang University, Euljiro 1-ga, Shinlim, City Hall, Seolleung, Bangbae, Sangwangsinni, Samsung, Bongrae, Mungrae, Nakseongdae, Seoul National University of Education and Seocho; Line 3: Chungmuro; Line 4: Sukmyung Woman's University and Sukmyung Woman's University (Donam). Asbestos Detected in 17 Subway Stations. The Chosun Ilbo, January 23, 2007 <http://english.chosun.com/w21datahtml/news/200702/20070250011html>
Seoul Subway says it will Remove Asbestos. The Hankyoreh, January 26, 2007. http://english.hani.co.kr/artienglishedition/e_national/1867389.html

はまだ社会的な問題にはなっていないかった。

下降期（一九九六年～現在）

危険な労働条件に対する積極的な規制が始まったので、韓国のアスベスト織物及びブレイキ・ライニングの製造業者たちは中国や東南アジア諸国に製造拠点を移転した。韓国において初めて中皮腫症例の診断がでると（一九九四年）、補償問題が注目を浴び、古い建物からのアスベストの撤去と取り壊し現場が社会的な問題となった。二〇〇六年八月現在、（労災）補償はわずか三五人の中皮腫とアスベスト関連肺がんを主張する請求者に支払われただけであり、彼らの大部分は、建設労働者、保守労働者、及び溶接工のようなエンド・ユーザーであった。韓国はアスベスト関連疾患の全国的な広がり（日本より一五～二〇年遅れている。地下鉄の状況及び同様な出来事は、アスベストによる死亡数増大をもたらすであろう。皮肉なことに、地下鉄の汚染に関するメディアの報道から数週間以内に、労働部は韓国におけるアスベスト禁止を二〇〇九年に発効させると発表した。^{*}この決定は、韓国のアスベストの遺産との闘いの開始をしるものであるが、その取り組みは次の問題点に目を向ける必要がある。

・韓国には、二〇〇三年の労働部規定にあるようにアスベストを安全に除去することについて政府によって認証された会社はない。そのような業務を行っている会社は通常の建材の撤去の認可を得ているだけである。

・韓国には、アスベスト除去訓練プログラムが存在しない。その結果、この作業に取り組むための技術と経験を持った業者者がいない。

・韓国には、アスベストを含んでいることが疑われる大きな対象物の分析とサンプリングを行うた

* [原注51] 2007年1月23日付タイムズ紙の論説記事「韓国におけるアスベストの脅威」によれば、「ほとんどの駅で、エレベータや換気設備、その他の設備の設置が後から行われている。工事期間中、大量のアスベスト粉じんが乗降客に降りかかることを考えると背筋がぞっとする。」

** [原注52] <http://english.chosun.com/w21datahtml/news/200702/20070250011.html>